

どうする「保育士配置基準」

理事長 大浦 純平

政府が年頭の記者会見で掲げた「異次元の少子化対策」に大いに期待を寄せていました。首相は少子化対策を含むこども関連予算を倍増する考えを従来から示しており、いよいよ始まるのだと身震いがしました。

中でも私が期待したのは職員の配置基準の見直しです。当初、政府は「たたき台」において、「75年ぶりの保育士の配置基準改善」を明記し、「1歳児は6対1から5対1へ、4・5歳児は30対1から25対1へと改善する」としていましたが、手のひらを返すように「雇用が間に合わず、保育現場に混乱が生じる可能性がある」などとして撤回しました。

近年、「0歳児は6対1から3対1」「3歳児は20対1から15対1」と改善されてはいるものの「4・5歳児」と「1・2歳児」の配置基準は手つかずのままです。

右表(OECDによる)は世界の配置基準の比較表ですが、日本の厳しい状況がお分かりいただけると思います。更に言えば、国の改善案の「4・5歳児の25対1」という数字は外国の現状と比較して見れば、まだまだ改善とは程遠い数字です。

	日本	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ
0歳児	3人		3人	5人 ~ 8人	6人
1歳児	6人	4人	5人	4人	
2歳児	6人	5人	4人		
3歳児	15人	7人			
4歳児	30人	8人	13人	15人	13人
5歳児		9人			

『悲しい事ですが、世間では今、「不適切な保育」が取り沙汰されています。保育関係者が真摯な姿勢でその根絶を目指すのは当然ですが、その一因がこの配置基準にあるとすれば由々しき問題だと言えなくもありません。』

しかし、6月16日に閣議決定された『経済財政運営の基本方針2023(いわゆる「骨太方針」)』では、「少子化対策・こども政策の抜本強化」の中で「職員配置基準の改善も見据え、保育人材の確保の強化と現場の負担軽減を図る」と明記がされたことは救いはあります。今後の予算化について期待しつつ注目していかねばなりません。

少子化は、経済の成長力の低下をもたらすとともに、年金・医療など社会保障制度の安定性を揺るがすものです。この点から「静かなる有事」とも呼ばれています。遅きに失した感否めないものの、現政権がようやく少子化対策に本格的に力を入れ始めたことを多に歓迎したい。



(元 さわび保育園 保父 / つぼみ保育園 園長)



つぼみ保育園年報 第26号

2023年(令和5年)9月1日 発行

発行/編集

社会福祉法人 輔仁会
つぼみ保育園

〒813-0044 福岡市東区千早1-18-24
http://www.hojinkai.ed.jp/tsumomi/



コロナが感染症法上の5類に移行し、世の中が元の日常に戻り始めています。人々がマスクを外し、心置きなく語り合い、食事を共にし、一緒に歌える「こんなこと」喜びを感じます。

三園でも親子保育や一日保育士が復活し、保護者の方から「園の子どもの生活の様子を見ること」が嬉しかったというお声をいただきました。離れた間のお母さんが「これまでにどかしかったこと」を話して、3年間、園内の様子を見て頂く機会が激減したが、例年と変わらぬ

目と目を見つめ合って

統括次長 大浦まゆみ

豊かな経験をとの思いで職員皆で関わり、子どもたちは年齢にふさわしい成長を遂げてくれたと思います。マスクがあっても、子どもたちはこの目と目を見つめ合っています。人かどの保育士なのか誰のお母さんなのかわかっていました。すごいなあと思います。乳幼児が人の顔を認識する時に先ず注視するのは、自分に



大人にしても、目と目を

やれる時に、やれる人が、 やれることをやろう

2023年度 父母の会 会長 山中 隼也



平素より父母の会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和5年度より父母の会会長を務めさせていただくことになりました山中隼也です。初めての会長職ということもあり分からないことばかりですが、これまでのOB・OGの皆様素晴らしい軌跡を引き継いでいけるよう一層の精進を重ね、子どもたちや保育園のために邁進して参りますので、よろしくお願いたします。

さて、今年度も『**やれるときに、やれる人が、やれることをやろう**』をモットーに、父母の会活動を行っていきたくと思います。新型コロナウイルスによる制限も徐々になくなってきたことで、今まで中止となっていた行事も少しずつですが開催できるようになり、本年度は、昨年まで中止となっていた一日保育士月間を行うことができるなど、今までできなかったことができるようになってきました。また、ボランティア清掃では、園長先生のご厚意で普段子どもたちが食べている給食を食べさせていただき、子どもたちが普段とても美味しい給食を毎日食べていることを知ることができました。新型コロナウイルスが5類に移行された

とはいえ、まだまだ油断できない状況がしばらく続くと思いますが、引き続き、健康と安全管理を第一に考え、子どもたちが楽しくのびのび過ごせるよう、父母の会の皆様でつぼみ保育園をバックアップしていきたいと思っています。

先生方におかれましては、いつも子どもたちや私たち保護者一人ひとりと真剣に関わってくださり本当にありがとうございます。子どもたちが楽しく園に通い、私たちが安心して仕事ができるのも先生方のお陰です。心より感謝申し上げます。

今年度からは、行事も少しずつ増え、皆様とお会いできる機会が徐々に増えてくることと思っております。引き続き、健康と安全管理へのご協力をお願いする中ではありますが、今後とも父母の会活動にご理解とご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

最後になりますが、皆様のご健康と、益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。新型コロナウイルス感染症がこのまま収束し、皆様が新型コロナウイルス前と同じ生活を送ることができるよう...

こどもまんなか

園長 小島千枝



今年四月にこども家庭庁ができ、こどもまんなか「社会を目標とする」ことが謳われました。「こどもまんなか」社会とは常にこどもの利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を社会の真ん中に据える社会を意味する。すべてのこども、誰ひとり取り残すことなく、その命を守られ、自分らしく、健やかに、安心して過ごせるように、こどもや子育てをしていく人の目線で、こどもの権利を大切にすると、常にこどもに最も良いことは何かを考えていくこととするもの。(こども家庭庁ホームページより抜粋)

輔仁会の保育理念『子どもたちに最善の喜びと幸せを 子育てに夢と力を』は、「こどもまんなか」社会そのものです。「こどもまんなか」は保育の鉄則です。私たちは、ずっと前からいつだって「こどもまんなか」を軸に保育してきました。ですから今まで利益を生み出す就労者つまり大人に重きを置いていた社会が、やつと将来を担うこども達を軸に据えた社会へ転換しようとしていることがとても嬉しく、期待しています。こども一人ひとりを尊重し愛情をもって社会全体で育てる仕組み

社会の取り組みは始まったばかりです。「こどもまんなか」社会が絵にかいた餅にならないようにその動向を見据えながら、これからも保護者の皆様と共にこどもまんなかの実践に努めてまいります。こどもも大人もみんなが今を幸せに感じて、特に子どもや若い人が未来に夢や希望をもって生きることが出来る社会になることを心から願っています。

